

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇  
公開講座 プロになるぞ！！ 第2回  
コメント一覧

**(用字用語)**

「用字用語辞典」というととんでもなく難しい辞書のように思えますが、現代日本語の語彙と表記の最適例と規則を記載した便利帳のような辞書で、新聞社、出版社で何通りか出版しています。

**text:02**

text:02原文は、6月23日号「予告編」に掲載しています。プリントをとって、新弟子さんと一緒に課題訳を検討してください。画面をスクロールして理解したつもりになっているとしたら、それは文化に対する犯罪ですよ。

！

原文で強調符！だから訳文も、と短絡して考えないで。よく使う疑問符？も日本語の表記法になかった記号です。！？を使わなくても古来日本人は喜怒哀楽を表現しています。

**「そうだとでも働き続けることは」医者は静かに付け加えた、「死ぬということですよ」**

文章を書いていると、句読点が気になりますね。読み手が自分と同じように「息継ぎ」をしてくれるか、論理を追ってくれるか心配になります。ビュシーノさん、この文章をぼくは下記のように読みましたよ。「ぎくりとする」前には句点ですね。

「そうだとでも働き続けることは」と、医者は静かに付け加えた。「死ぬということですよ」。

**紆余曲折**

うよきよせつ。最近TVのクイズ番組で私立小学校入試の四語熟語が出題されているので古語ではなさそう。翻訳者がもしかして「紆余曲折」を訳文で使うと若い編集者が「これ、小学生のレベルだな、子供っぽい」というかも。和訳でnot only ~ but alsoの構文を使ったら「中学英語じゃないか」と大メーカーの資材調達課に叱られた達人もいたな。

**「冤罪」**

アメリカ南部で実際にあったBoorn Brothers事件。コリンズは実話を小説に仕立てたのです。今でいえばTVのワイドショーだったのかも。コリンズには他にも北極圏で氷河に閉じ込められた男女の葛藤を描いた“The Frozen Deep”があります。ディケンズも大騒ぎ、二人で脚色してお芝居にしたとか。

**OED**

The Oxford English Dictionary. OEDの略称で知られている大辞典。英文科の先生たちが単語の初出を探して「知ったかぶり」に使ったとも。今は書籍版は古書で、CD版で新版が買える。

**『花嫁学校感傷賦』**

日本にもこういう花嫁学校があるといいな、とファンレターをもらった。たしか昭和女子大の生徒さんだったか。かわいい話ですよ。『ボズのすすケッチ』(岩波文庫)に入っています。

**the briefs**

今回の課題の末尾でmy briefsと言い換えています。「訴訟事件」でいいでしょう。「机の上のある事件の山」とでもいきたいところかな。鞆のブリーフケースではないですね。

**私は繰り返しました。**

ビュシーノさんも同じけど「繰り返す」の主語「私」は要らない。それよりも「！」を生かして「思わず繰り返す」とすると小説になるな。

**それは一時的なことだとわかっているのかな？**

どこでこういう訳が飛び出してきたんだろう？ termの引き損ないだろうけど。

**私を待っている机の上の訴訟事件摘要書を見ろよ**

泣けた！眠り姫さんが課題訳に添えてくる日本語は間違いのない立派な文章なのに、翻訳でおかしくなるのは「力負け」かな。

**訳語**

ほんとうは「対応語」と言うべきですが。

**話し終わるや**

診察が終わったとき。「～し終わるや」は気合いが掛かりすぎてるな。駄目。

**テーブル**

ここは「机」だな。テーブルに向って毎日の仕事をするかな。間違いではない、語感の問題だけ。

**未処理の**

「未処理」は考えすぎ。

**そうだとしても働き続けることは**

ここはあっさりでよかった。考えすぎ。この文の句読点についてはすでに指摘しています。

:

コロンのですね。ピリオドでもない、といっちはっきりした接続詞でない。でも、日本語はコロンの、セミコロンを上手に表現できる言葉です（いわゆる言外の意を移せる言葉です）。この引用部分だけでもコリンズは5箇所でもコロンを打っています。過剰な使い方ですね。話の先を急いで書くと、記号を多用するようです。

**deliberately**

こういう副詞は困る。動詞deliberateに「熟慮する」があるので、頭をよく使う、を強調する意味に解釈。「熟慮的」なんて言葉はおかしいので、翻訳では「これ以上脳みそをややこしいことに働かせると……」といった調子かな。

**熟慮的に**

いい訳語が欲しい。

**Go away**

新婚旅行に出かける、の意味もあったな。

**怖がらせようとしていなくて**

ここは日本語がおかしい、直すなら——怖がらせようとしていたわけではなく、となるな。

**明らかに真剣でした。**

原文を知らなければ読者は問題にしない。

**それは**

訳した本人が「早晚死が訪れる」と読んでいたかな。そうであればもうすこし訳文に工夫があつていいな。

**ルフランクさんは**

こう訳したので文体が狂っている。誰が誰に語っているのか。様子を思い浮かべて訳さなければ。

**意識的に脳を使いすぎること、神経系統の調子をこれ以上長く狂わせることはできませんよ**  
よくよく眺めて、さて、どう直すかな？

**出かけてごらんさい**

言葉足らず。

**施薬**

？

**もう言うことはありません**

私の処方「休養」をすすめるだけ、他に何も言うことはありませんよ——といっている、訳文にもう少しお色気がほしいな。

**裁判所に行きました。**

何しに行ったの？ 裁判所の法廷だね。

**そうだとしても働き続けることは**

ここまで翻っては駄目。

**本音で**

本音を、だな。「てにをは」に注意。注意じゃないや「てにをは」は日本語の精霊だよ。元気に跳ね跳ぶ妖精ちゃんだよ。

**それは時間の問題に過ぎませんよ**

流れを掴んでいるな。この調子！ ショパンの音楽には「装飾音」があるというけど、翻訳にも「装飾語句」があつていいな。眠り姫さんには「お色気」といったけど、同じことでしたね。

**海風**

？

**ところが私は意地を張ってその日も**

気分が伝わってきますね。

**戦慄・驚愕したことに**

漢語を重ねてもいい表現になりませんね。「驚いたことに」という常套語句が浮かんでくるが、使いたくないな、と思ってしまうですね。困った。

**彼に伝えなければならなかった、ある情報を私に求めた。**

分かったようで分からない。「言語明瞭、意味不明瞭」といわれた政治家がいたけど、翻訳者にもこれが多いな。真似しちゃ駄目だよ。

**すっかり恐怖でいっぱいさせられる**

to my ~ の語法を知らないのかな？

に  
から

初めてニューヨークに向けて航海した汽船でアメリカへ旅行をすることによって、私は医者  
の忠告に従ったのです。  
しっかり勉強して改訂しなければ。

私が担当している事件の首席弁護士からある情報を求められ、それを知らせるのが私の任  
務だった。だが自分でもぞっとし、驚愕したことには、考えをまとめることが一切出来な  
くなっており、頭の中では事柄と日付がぐるぐると混ざり合っていた。  
文章が長くなっているけど、しっかりとコリンズを読んでいますね。良かったな。読みながらは  
はらしちゃった。

**代訴人達**

弁護(士)団、でいいでしょう。

**医者**

せっかくだ、「主治医」の方がいい。

**藤岡訳:**

翻訳は翻訳者の人格の表現であると唱えています。良きも悪しきも、翻訳者の個性の表現です。  
直訳、意識、そのいずれでもありません。翻訳は.....著者と共演する演奏活動です。